

大井第一小学校



同窓会会報 8号

大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2006年3月



防犯カメラ一式内容
 ・カメラ4台
 ・レコーダー
 ・モニターテレビ
 (4台で監視)
 約2秒毎にモニター画面が
 切り変わり三週間分を録画
 します。



開校130周年記念行事を終えて

同窓会会長 津田 照通

開校130周年記念行事も盛会裏に終り、皆様のご芳志によって「防犯カメラ」の設置も年末に完了し、4ヶ所から校内への出入りがチェックされ、安全を確認する映像が鮮明にモニターテレビに映されています。

最近連続して発生した児童への凶悪事件に、防犯カメラ設置の必要性が叫ばれているこの時、同窓会のこの事業はまさに快挙であり、校長以下職員の方々から大変感謝されて居ります。

11月19日の記念式典に臨席された、高橋品川区長、若月教育長も、時宜を得たこの防犯カメラ設置に深い感謝の意を表されていました。

ご存知の様に本校は昔から越境入学が多く、最近では学区の制限も緩和された為、少子化の傾向にも拘らず児童数の増加で24学級を超え、教室が不足し嬉しい悲鳴を挙げて居ります。

お蔭様で同窓会の活動も益々活発化し、会報もご覧の様に充実して参りました。名簿については「個人情報保護法」の関係もあり発行は差控えさせて頂いて居りますが、その内容についてはより正確さを保つ為努力し管理して居りますので、クラス会や同期会等で必要な時はお申し出下さい。但し、卒業年度によっては資料収集の手立てが無く空白の年代もありますので、今後は縦横の連絡を密にしつつその空白を埋めたいと考えて居ります。

同窓会のホームページ開設については、学校側にもご協力頂きながらその立上げに努力して居りますのでご期待下さい。

開校百三十周年をお祝いし

同窓のよさをかみしめる

大井第一小学校長 桑野 貴文

この度は、大井第一小学校開校百三十周年誠におめでとうございます。

さらには、平成十七年十一月二十六日に多くの同窓生の皆様が一堂に会し、周年を祝う同窓会祝賀会が盛会裏に開催されましたことを心からお慶び申し上げます。

本校が明治八年五月に来迎院様の部屋をお借りして公立小学校大井学校として開校してから百三十年。その歴史と伝統のある歩みを紐解きながら、関東大震災や一度の戦災に遭いながらも、時代を経るごとに本校へ寄せられてきた地域の方々の期待や深い愛校心の高まりや、多くの子どもたちが豊かな小学校時代を過ごしてきたことなどをあらためて強く感じました。

平成十七年四月に着任したその年に、このような貴重な節目の校長としてお役を戴いたことは光栄でもあり、重責を感じるものでもありました。

しかし、関係者の皆様から温かなお力添えをいただきました。なんとか任を果たすことができました。あらためて厚く御礼を申し上げます。

特に、同窓会の皆様には、理事会に

も同席をさせていただきましたが、そこでの津田会長を囲んだ皆様の、卒業年度の違いを越えた仲の良い語り合いに同窓の温かさを感じ、会のために心の和む思いがしております。また、お一人お一人の大井第一小学校へ寄せた想いも伝わってきました。そしてさらには、祝賀会に出席された同窓生の皆様がお互いに〇〇君、〇〇ちゃん小学生の頃と同じ呼び名で声を掛け合っている様子に、同窓ならではの心のつながりを感じ、胸が熱くなり、また羨ましくもありました。

百三十周年という節目の年だったからでしょうか。平日にも、本校を卒業された方が来校され、懐かしそうにご自分が小学生だった頃の学校の様子を話していかれることも度々ありました。来校された方が、森副会長が掘り出してくださった昭和二十六年からの学校日より「大井第一」を見ながら、恩師や友だちの名前を探し、商店の広告を見て当時の町の様子を語る姿を拝見し、母校があつてこそ出来ることなのだ、しみじみ思いました。

百三十年をきっかけに、様々な方に出会い、学校への熱い想いを肌で感じながら、今の子どもたちにもこの大井第一小学校が母校としていつまでも心に残り、時に人生の難局に立った時心の支えとなっていくようにしなければならぬと強く思いました。

社会が変化し、それに伴って学校教育も変化しなければならぬ部分はありますが、変化してはいけないところもあると思います。

心の底から人の道を説き、体当たりで子どもと遊び、共に悩み、とことん勉強を教え、時に厳しく時に優しく励まし叱咤し、いつもいつも真剣に子どもものことを思う、そんな教職員が子どもたちに母校愛を深く刻み付けることになるのだろうかと考えます。

同窓生の皆様の仲間に入れていただけるような、心豊かで賢く、困難にもめげず社会に有為な子どもたちになければならないと、百三十周年を節目に誓いを新たにいたしました。

最後になりましたが、昨今の子どもたちを取り巻く不穏な社会情勢にかんがみ、この度、同窓会から防犯カメラ一式を御寄贈いただきました。子どもたちが安心して勉学に励むことができ、感謝申し上げます。

今後とも、同窓会の皆様が大井第一小学校を母校として温かな心を寄せていただきますようお願いいたします。とともに、御会のますますのご発展を祈念いたします。ご挨拶とさせていただきます。

同窓会に寄せて

副校長 大上登志雄

大井第一小学校開校130周年、おめでとうございます。

昨年の11月19日の開校130周年記念式典、祝賀会にあたっては、多大なご支援とご協力を賜りありがとうございました。児童はもとより教職員にとっても新しい教育の始まりにあたっての貴

重な節目となりました。

130周年の今年度は、同窓生の方々が時にふれて学校を訪れてこられました。そして校内の種々な木々を懐かしそうにご覧になっていかれました。

中でも大部分の方が校門を入ってすぐ目に入る大銀杏をご覧になっていかれます。

校庭のたぶの木は、今、学校のシンボルツリーになっていきますが、やはり最初になつかしさがこみあげるのは、この大木なのかも知れません。私は、給食室のそばのエンジュの木が好きです。初夏に白い小さな花を沢山つけ、夏から秋にかけて細長いさやインゲンのような実が鈴なりにみえます。朝のさわやかな風にさらさらと音をたててゆれる様子はとても心おだやかにさせてくれます。本日に数多くの子ども達がこの学校を巣立っていったことだろうと時の流れに思いをはせます。私がこの木の姿を見るのは、ほとんどが朝の早い時間です。日課として校内を回る時にこの木と出会い、「おはよう」と声をかける木です。

校庭にある一本一本の木にきつと一人一人の方がそれぞれの思いをいだいてきたことでしょうか。木々はここにすぎた人間を見つめてきたのかも知れません。

正門のそばの「ひみつの小道」にも数多くの木があります。ほけ、つつじ、ざくろ、さざんか、さくら、こぶし、もくれん、ゆずりは、まゆみ、はなみずき、などなど。

これからも、社会は種々に大きく変

化していくことでしょうが、木々が年輪をつみ重ねていくように、確実に学校の歩みをすすめていきたいと思っております。

開校一三〇周年同窓祝賀会・記

会報委員会

晩秋にしてはとても穏やかな気持ちの良い天候に恵まれた平成十七年十一月二十六日(土)午後一時から、母校の体育館において、祝賀会は出席者250名で式次第に沿って開かれました。当日、出席できなかった方にも、どのような内容の会であったかを少しでもわかっていただけるように、ここに、簡単に報告させていただきます。

司会は、松本徳太郎副会長と中尾利民理事。杉内先子副会長の開会の辞で始まり、津田照通同窓会会長の挨拶、来賓紹介に続き、桑野貴文校長の祝辞と速やかに運びました。

記念品贈呈では、津田会長より桑野校長へ、同窓生の皆様から寄せられた六六二件・一、六五二、〇〇〇円を児童の安全を見守る防犯カメラ設置費用として目録が贈られました。同窓生の皆様の心暖まる多額のご寄付を頂きまして誠にありがとうございました。

次に、岡田一郎顧問の乾杯の発声の後、会食、歓談に入りました。今回立食ではありましたが、年代別に十四卓のテーブルに別れ、来賓席や年配の方々の席には、円卓を囲み着席できるように椅子を配置して、ゆったりとし

ていただけました。飲食は、和・洋・中の折中の料理と多種類のお酒やソフトドリンクの飲み放題、お寿司の屋台・しゃぶしゃぶ・ローストビーフのカット等のパフォーマンスと盛り沢山でした。

アトラクションでは、在校生が参加している『大井囃子』の賑やかな音色と獅子舞の後、来賓の先生方の思い出話があり、そして、同窓生の皆様から寄せられた懐かしい貴重な写真を基に、井上幸子理事解説によるスライド放映を行いました。出席者の方には、十五分ばかり飲食の手を休めてまで見ていただきました。また、会場内では、会報のバックナンバーや写真の他、学友会からの協力により、懐かしい資料とパネルの展示等も見ることができました。

仲間同士の記念撮影もあちこちで見られ、会も終盤に入り、松崎濤子先生のピアノ伴奏・大野正恒理事の指揮による校歌斉唱となりました。今回は、一番から四番の通常の歌詞に加えて、作詞をされた卒業生である北條誠氏が周年行事用に用意しておかれた歌詞を五番として歌いました。

岩城英規PTA会長の万歳三唱、そして森副会長の閉会の辞へと滞りなく祝賀会は終了致しました。

三時間余りの短い時間ではありましたが、この一瞬は子どもの頃に返った気分や旧友と同じ時を過ごせたことは、皆、幸せであるのだと思えました。いつまでも名残惜しく、閉会の後、同期会へと流れた学年も数組ありました。

一二〇周年以後、組織としてまとまった同窓会。行き届かなかった面もあったと思いますが、皆様のご協力で一三〇周年の同窓・祝賀会を無事に終えることができたとしております。

情愛の通う郷

旧職員 S 30 37 迫田 文雄

大井町駅まで二回乗り替えた。老翁の身に短い道程ではない。だが、回想の時間はタツプリだった。丁度、半世紀の五十年前のこと。私は城南随一の名門校に赴任した。でも、当時の住宅事情のこととて、住む家が無い。やとと知人の紹介で江東区都営住宅、その一室に親子四人曲り込んだが、鹿児島から運んだ荷物のうち、六十こ余りは王子の丸通に預けつきりという状態。毎日亀戸から大井町駅までの通勤だった。

一クラス五十人ほどの五年生。名も雪組とは可憐だが、子どもたちは純篤で真摯。直ぐになつてきた。休み時間、廊下に置いたオルガンで伴奏すると、声を合わせて歌ってくれた。

秋も深まり、校庭の桐の葉が散り始めたある日の午後、三・四名のお母さん方が教室に訪れてきた。そして、いきなり、「近くに家があります。ひっこしてください。」

啞然として声無き私。「あんな不便な遠くから通っていたら、そのうち、嫌気がさし、先生は逃

げ出してしまいかもと心配していません。」

有無を言わせぬ強要？ことばの裏の厚情は惻々として打ってくる。「ここは温かい情愛の通いあう郷(さと)だ」と、私は頭を上げることができなかった。

「創立百三十周年記念式典——たとえ、ヨタヨタ歩きでも、是非出席させていただくことに心を決めた。

会場に着くと、「祝う会」の森秀雄副会長が、直ぐに手を振り満面の笑顔で迎えてくれた。

会長、校長先生始め諸先生方、委員の皆様方、本当にご苦労様でした。深謝します。

会場は温かい笑顔、そして語らいの声が流れていました。私は校庭の展望できる窓辺に寄り、かつて、つわもの？どもの夢見、駆け回ったそこを、「新しい伝統の創作」される場として見入っていた。

百三十周年同窓会に参加して

昭和35年卒 住友 光男

昨年十一月に行われた同窓会に参加した折、開校百三十周年記念誌を手に入れました。その中に「百三十年の歩み」の頁があり、私が在籍した六年間の記録を見るとわずかに四行の記載でした。百三十年の歴史の中で六年間が四行に集約されていたわけです。わずかに四行されど四行です。個人の原点がこの四行にあるといっても過言ではな

いでしよう。その証拠には、同期の参加者は二十名弱でしたが、中には新聞の地方版に掲載された案内を見て参加された方もおり、驚くと同時に大井第一の引力のようなものを感じました。

同窓会当日はいろいろな思い出話が出ましたが、その最たるものは二部授業でしょう。私の世代は団塊の世代で、七クラス総勢四百名弱でした。人数が多いことと校舎改装が重なったことから二部授業が行われましたが、二度と味わえない楽しい思い出です。二番目は課外授業のひとつとして文楽鑑賞が行われた時、女義太夫をうたった人の入れ歯が飛んだことです。これはその瞬間を目撃した人の強烈な共通の思い出です。勿論、文楽の内容は覚えていません。三番目は赤禪です。当時の臨海学校の水着は赤い禪でした。禪の締め方を吉田先生から教わったのですが、なかなか上手に締められません。波が来るととれるので、とれた場合は海の中で締め直してからあがつてくる状態でした。また、砂浜で相撲大会が行われましたが、仕切りをする時禪がたるむので、相撲をとるより仕切りの方が大変だった記憶があります。禪との格闘が臨海学校の懐かしい思い出です。会った瞬間からすぐに童心に帰れるのが小学校の同窓会だと思います。思い出話は尽きず、二次会三次会へと場所を変え、記憶を無くすまで旧交を温めたことは言うまでもありません。最後に、このような会を企画していただいた幹事の方に感謝すると同時に、大井第一の益々の発展を期待しております。

出席された先生方



『同窓生の想い出』

思い出

私が大井第一に入学したのは、昭和
昭和13年卒 岩城 英敏

七年（1932）今から七十四年前のことです。担任は代用教員の楠本先生でした。師範学校を出て最初の学校に奉職すると、本科正教員の免状を授与されるのですが、楠本先生は大分県の師範学校を出て数年間、大分県の小学校に奉職、そのうち東京府の学校に転勤したので、一年間は代用教員だったのです。私が三年生になる時、先生は浜川小学校の高等科に転勤しました。

一年生は五クラスで、松・竹組は男子組、梅・雪組は女子組、月組は男女組です。月組の担任は小林先生という女性の先生でした。先生は子福者でした。何時も小使室で、実父か義父か判りませんが、乳児を抱えて来て、小林先生が授乳しているのを見かけました。実母か義母がいなかったのでしょう。産休の制度が無かったことと、先生の家が鹿島交番の近くにあったので、このようなことができたのだと思います。

昭和八年、大正時代に陸軍大臣をされたことがあり、鹿島町在住の元帥、陸軍大将の上原勇作さんが亡くなつて、霊柩車が桐ヶ谷火葬場に赴く時、学校は半日休みとなり、児童は道に並ばされ見送りました。翌年五月に、日本海海戦の時、連合艦隊の司令長官だった元帥、海軍大将東郷平八郎さんが亡くなった時は、国葬の日となり、日本全国の学校が一日休校になりました。私はその時、「東郷元帥は上原元帥より偉い人なのだなあ。」と思ったことを覚えています。

そのころ、校門の左脇には校長住宅

がありました。当時、校長であった桜井先生は、学校から徒歩数分のところに自宅があったので、校長住宅には新堀首席訓導（教頭）が居住していました。夏になると、校長住宅は窓が開け放たれ、夕方、新堀先生は浴衣姿で晩酌をし、それが終わると軍服に着替えて、併設されていた青年学校（夜学）の生徒に軍事教練の指揮を執っていました。当時の男性教員には、大日本帝国憲法で定められた兵役の義務がありました。

また当時、若い男性教員が時にいなくなることもあり、しばらくして学校に戻って来ると、頭が丸刈りになっていたりということがありました。これは、男性の先生に「短期現役制度」といって、軍隊に六週間入隊すれば兵役免除になるという特典があったからです。軍隊では長髪が認められず、全員丸刈りです。この制度は、初代文部大臣である森有礼が、教員に対する短期現役制度の入隊期間を六ヶ月とするという部下の原案に対し、黙って「六ヵ月」を消して「六週間」としたのです。これだけでも、明治政府の教育に対する意気込みが判ります。

校門に入って校舎の入口の左側に、教師用の下駄箱がありました。名札は校長、首席訓導、それから本俸の高い順に張られていました。本俸は官立学校出身者が私立学校出身者より一号俸高く、男性は女性より一号俸高いのです。つまり男性の官立学校出身者は女性の私立学校出身者より三号俸高いということになります。この制度が廃止

され、官立と私立、男性と女性の差別がなくなり、同一号俸になったのは、昭和二十二年十月のことです。現在の常識からは考えられないような当時の情景です。
(次号に続く)

妄想と笑われた狸の話

昭和25年卒 椿 久雄

大井第一小学校の創立百三十周年の祝典が盛会裏に行われましたこと、まづ以てご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

母校を訪れての存在感到改めて驚き、此処に学び卒業したことを誇りに思いました。

私の五・六年生時は昭和二十三・四年でまだ戦後の混乱期で不自由な学校生活でしたが、大井第一は先生方の熱心なご指導のお陰で、勉学はもとより文化の香りも高い小学校でした。授業をさいの知識人の講演があり、当時NHKラジオの人気アナウンサーだった和田信賢さんが来校され、後日NHKを見学し校内で模擬放送までしたことは忘れ難い思い出で級友達もよく覚えておられるようです。どうも私しか覚えておらず、級友達から私の妄想と笑われた思い出話なのですが、ある講師が体験談を面白おかしく話をし、お年頃だった担任の松崎濤子先生が声を上げられ笑っていらした事を覚えておられます。その時の話で大井町に鉄道が引かれたばかりの頃、大井を過ぎた頃にきまっつて、単線なので来ない筈の対向に機

関車がやってくる。慌ててストップすると何事も無かった。度々なのでとうとう一人の機関士が目をつむって突っ込んだところ「きゅっ」という音がして、狸が死んでいた。その狸は御殿山近くに葬られたという話が何故か忘れられないのです。

数年前、品川民話や品川神社から御殿山付近の昔の地図を調べましたが、地名や塚に狸のつくものは見当らずちよつとがっかりしました。

三日前に会った人の名前が思い出せなくなつた年になつても、狸の話をした人の顔は何故かイメージとして思い浮かんでいたのですが、最近突然浮かばなくなり、おまけにその顔は同級生のK君の顔になつてしまふのです。また楽しからずやです。自分だけしか覚えていない小さな事でも、昔話はするべからずでも、級友達との語らひは楽しく、大井第一時代の昔話は私のロマソンののです。

初恋の挽歌

昭和33年卒 堀川 信子
(旧姓 原田)

土曜日の朝十時。品川駅京浜急行改札口は行きかう人の表情が、何処となく週末の楽しいげな小旅行出発気分を漂わせている。

待ち合わせの人、Uちゃんが目の中へ入ってきた。背広を着ている。これまでUちゃんの背広姿を見たことがない。ちよつと年が行き過ぎていける

ど、成人式の息子の晴れ姿を見るようだ。これから京浜急行に乗って、上大岡まで行くので待ち合わせをしていた。Uちゃんとは、昭和二十年生まれ六年松組同級生。私はわざわざ寄留して「品川の学習院」大井第一小へ通つた。六松は、男子女子共仲が良く、ドッチボールも馬のりもいつも一緒に遊んでいた。小学時代はどうしても女子が主導権を握つてしまふ。特に六松は、ずば抜けて利発な美少女が勢揃いしていた。その上担任は、悪さをすればゴツソンの村田チエ先生。静かで優しいのは男子の方で、後に東大卒がぞろりといるのが自慢のクラスなのである。その男子の中でガキ大将はUちゃん。今問題になつている苛めなど微塵もない、どうしようもなく子供っぽい質の悪戯を得意芸にしていた。健康診断の時、誰のオツパイが大きいかを、自分を使つて偵察させる。袋叩きに遭う事間違いなし!

四年生時に八十周年を迎えた。ラジオの公開番組が来て、竹組のK君とデュエット「野菊」を唄った。勉強は勿論、音楽教育も熱心に教えて頂いた。音楽会での個人芸も素晴らしく、今でも「ロマンス」を聞く度、バイオリンを奏でた少女が目につぶ。女義太夫が、舞台上で熱演のあまり入歯が飛んでしまふ、子供心に笑つてはいけなないと、それを堪えるおかしさ。

私の親友Nツ子は、おかつぱ頭のえくぼの愛くるしい、利発な少女である。社会人になつても楽しい付き合いが続いていた。昭和六十三年いつもの年より

彼女からの誘いが多く、湘南好きの二人は、その辺りでよく恋愛論など話をしていた。小学時代から体が弱かつたけれど、すべての事に前向きに歩んでいく姿は、私にいつも心地良い刺激になつていた。六松の皆とめぐり逢つた事を誇りに思つていた彼女は、将来それぞれのキャリアを生かして六松商事を創る。と言つていた。十二月「風邪をひいたの、お正月過ぎたら、貴女の好きな北鎌倉でね。」頼りない声の電話だつた。

それが最後の声だつた。

凄まじいほどの早さでガンは進行していた。Uちゃんに電話を入れた。たつた二ヶ月で、Nツ子が亡くなつた事を告げた。それからUちゃんの電話は、一回毎涙声になつていた。六松の皆に電話をかけてわかつた。どれほど彼女が皆から愛されていたかを。次の日の通夜の席に、同級生が勢揃いしていた。亡くなつたと知らせて以来、感じ始めていた事がはつきりしてきた。

「Uちゃん、Nツ子の事ずつと好きだつたのね。何故気持を伝えなかつたの?」「言える訳ないだろう女王様に。」そうだつたのか、何故気付かなかつたのだろう。初恋はあまりに秘めやかなもののせいなのか。私達が察しようとしもしないままに月日が流れて行つてしまつたのだろう。ガキ大将の子というのは、充分なほどデリケートさを持ち合わせている。まさにUちゃんは、その繊細さが、年を重ねて輝いていた。通夜の席で大きな紙袋を私に渡した。中に可愛い素朴な野の花が、無造作に

入っていた。「Nツ子の棺に入れてくれる？大井第一に寄って摘んできたんだ。」

「六松は最高だよ」というガキ大将Uちゃんの心に密んでいるもの。ひたむきな優しさに涙が止まらなかった。

祥月命日に近い今日。用心棒を頼んで、お墓参りに来ている。Uちゃんは手桶けと、チリ取りを持って。

「Nツ子！今貴女のいる処の電話番号を覚えて下さい。知らせる事があるの。よく貴女が話していた理想の男性が、ここにいます。」

PS・六松会を創ってくれた吉岡君もそちらへ行ってしまったのよ。会った？皆の名簿を作ってくれた永久幹事。皆で大切にこの六松会を続けています。冬の夜空は星が美しく、そちらへ往った人達を、あの星は誰、と見上げています。

同期会クラス会だより

気力・体力まだまだ若い！

昭和24年卒 幹事代表 梅組

松林 二郎

昭和二十四（一九四九）年卒同期会が、昨年の十月二十九日東京・銀座のレストランで開かれた。恩師の小澤達子先生（梅組）は、ご都合が付かず残念ながら欠席。参加者は二十三名（会員名簿の記載者は八十二名）。遠くア

メリカ・オレゴン州ポートランドから駆けつけてくれたり、また卒業以来はじめて再会出来たといってお互い無事を喜び合ったり、まるで映画の一シーンを観ているようであった。

今回は戦後六十年ということもあって、学童疎開の様子や二部授業それにヒマラヤ杉の下での青空教室など懐かしく語り合い、話題は尽きなかった。

また、戦災で校舎が焼失したためしばらく浜川小学校に間借りしていた頃の話の中で、誰ともなく「浜小の生徒にはよく苛められたなあ」という声もチラホラ（居候のくせに生意気だと思われていたのでしょう）。

宴なかば、梅組の溝口（原田）とく子さんから「敗戦六十周年を機に、昭和二十年前後の思い出や戦争体験等を皆で共有し、想いを分かち合うために文集を作ろう」という提案があり出席者全員が賛成。当日欠席された方からも人伝てに聞いて原稿の提出があった。編集担当は、溝口さんと渡辺功さん（梅組）のお二人。この夏には完成の予定で、「母校にも寄贈し、先生から児童に読み聞かせて貰おう」ということになった。

更に、司会の中村光伸さん（松組）が「平成十八年は、私達にとって古希の年、みんなで祝おう！」という威勢の良い発言があって、隔年が恒例のこの会は、今年も開かれることに決まった。あつという間に予定の二時間半が過ぎ、再会を約して散会。このあと三々五々二次会へ。「気力も体力もまだまだ若い！」と実感した一日だった。

昭和四十二年卒業生

同期会を終えて

昭和42年卒 梅組 井上 幸子
(旧姓 山崎)



「一三〇周年同窓・祝賀会」の後、午後六時から「竹むら」で同期会を開きました。九年ぶりの同期会は、松組担任の立元敏雄先生を囲み三十八名の当時の児童が集まりました。同期生である竹村真吾氏の計らいで八時半頃まで、楽しく飲み、美味しく食し、語り合いました。

出席者の中には、卒業以来初めて会う人や、北海道・九州から駆けつけて来た人もいました。会では、出席者の

一言挨拶の後、欠席者からの近況コメント等をお伝えしました。

この九年の間には、恩師の佐藤千代子先生・鈴木万造先生・男子二名が亡くなるという寂しい出来事もありましたが、他の人々は五十歳（半世紀）を迎えるという、人生において喜ばしい折り返し点を通過しました。

今回、同期会の案内状を出す時に、同期生の行方不明者リストを掲載したところ、宮田先生をはじめ多くの方から情報をいただき、二十名程の所在が新たに明らかになりました。その結果、同期会に参加していただけた方も六名

第一小の思い出

—私の感謝状—

昭和31年卒 水野 勝之

渡り廊下 教室の
窓の向こうの 白い雲
ブルル水面の 輝きや
頬に微かに そよぐ風
遠く聳える ヒマラヤ杉
近く香った 青い桐
静かな中に 白墨と
本読む声が 聞こえてた
あれは幸せな 時でした
一生懸命な 先生や
優しかった 友の父母
見続けていた 父や母
長い月日が 過ぎ去って
親しき人が 思ってた
道とは少し 違うけど
今精一杯 歩んでいます

おり、大きな成果を上げる事ができませんでした。ご協力いただきました皆様、どうもありがとうございます。

数十年ぶりに大井町を訪れた人は、大井第一小学校や伊藤中学校の周辺を散歩してみても、時の流れを実感したようでした。そのような事もあり、同期会は大盛況で、三次会まで二十二名の参加で名残惜しくも散会しました。

話が盛り上がり、各クラス会の話も近年中に実現しそうですので、今回、出席できなかった方は、幹事からのご案内を楽しみにお待ちいただければと思います。

アンケートの結果について (編集部)

同窓会終了後のアンケートにお答え下さった方、(八十名)、ありがとうございます。答えをまとめた結果は次のようでした。

- ①会場について (体育館でよかった) 70名
- ②会費四〇〇〇円について (妥当である) 68名
- ③同窓会の内容 (満足だった) 72名
- ④クラス、または同期会名簿がある (ある) 60名
- ⑤クラス、または同期会を開いて (いる) 68名
- ⑥同窓会報の内容に (興味がある) 55名

参加者は大正5年から昭和38年生まれというひろがりがありました。また、卒業年度は昭和35年、昭和19年、昭和14年の頃に出席者が多かったようです。そのほか、懐かしい思い出、これから会報に望むこと等を書いていただきました。その中から、いくつかを紹介いたします。

○中学3年の時、戦争が始まり、そのために大井第一小学校が私の心の中では一番なつかしい。その小学校に今日、来る事が出来、大変、なつかしく嬉しい。

○大井町のようなすが、あまりにも変って浦島太郎の気持ちでした。出席してよかった。

○32年卒は、たったひとりの出席でしたが、なつかしい先生方にお目にかかれてよかった。

○楽しかった。お料理もおいしかった。役員の皆様、ありがとうございます。

○(会報について) いつもなつかしく拝見し、海外在住の友人にコピーを送っています。

『振替用紙の通信欄より』

○防犯カメラの設置はいいことです。ね。文字通り「貧者の一灯」ですが協力したいと思います。どうかよろしく。

(S11年卒 續 淑子)

○防犯カメラは、学校当局が備えるも

の。同窓会などに頼むのはおかしい。1口だけつきあう。

(S12年卒 吉岡 秀夫)

○本来であれば、公式の行事には参加できない立場の者ですが、皆様方の御好意によって会員名簿に記載させて頂いておられます(終戦当時の疎開によって他校での卒業)。

(S21年卒 風間 要)

○同窓会会報ありがとうございます。表紙の大正、昭和の正門の写真なつかしく、一年生として入学した時は玄関左側階段前の校庭に面した教室でした。黒板の前に立たれた黒田今子先生のお姿が今もはっきりと目に浮びます。物故者の中に先生のお名前を拝見し残念でございます。ご冥福をお祈りします。

(S13年卒 鍵野 朝子)

○4年担任 吉井先生(女)(転入)
 5年担任 渡辺先生(男)
 6年担任 斉藤先生(女)
 野村先生(女)

良い先生方ではつきり覚えております。

(T15年卒 ニノ宮八千代)

○昨年黒田今子先生が亡くなられ、戦争が終って何十年振りに先生を始め、同級生の方々にお会いした日のこと、名古屋に先生にお目にかかりに、何回か伺ったこと思い出します。

(S16年卒 保坂三奈子)

○大きなヒマラヤ杉の木を見るたびに、まだ校舎が焼けてなかった時、その下で勉強をしたことを思い出します。その木も今は切株だけ残って

国語、算数、理科、社会
 遠足、学芸、運動会

野球、相撲に 長馬飛び
 女は皆な 優しくして

男は何時も 生き生きと
 悔しいことも ありました

心わき立つ 思い出は
 友の笑顔が 付いている

約束をして 放課後に
 公園、広場、街角と

飛び回って 日暮れまで
 一心不乱に 遊んでは

別れて明日が 待ち遠しく
 夢中で時を 生きていた

鹿島神社の 夏木立
 水神公園の 水溜り

三ツ又通りの 賑わいや
 店屋の人の 掛け声は

あの日輝き 光ったた
 戻らぬものは 戻らねど

夢のように 過ぎ去った
 少年時代は 今もなお

黙って私を 支えてる
 いるとか、残念です。

(S24年卒 増島 佳子)

○S28年卒です。我々が4年生のとき、創立75周年を記念して校歌ができました。「75年、年ごとに人は変われど」と歌いました。84才まで生きれば丁度その倍150周年。そのときはもう一度当時の在校生が集まって、校歌の合唱をしたいと思っています。

(S28年卒 下田 孝)

投稿のお願い

「文字」にして残しておきたい思い
出等、随時投稿をお待ちしています。
10月30日までに、郵便、Eメールで、
森または松本宛にお送り下さい。

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会
報等の印刷代、通信費、事務費、母校
に関わる慶弔費等の諸費用がかかりま
す。平成16年の会費納入者は約八〇〇
名で約七〇〇〇名に第七号会報を送る
ことができました。これからも安定し
た同窓会活動を続けていくために、会
費納入に皆様のご理解とご賛同を心よ
りお願い申し上げます。
一口 一〇〇〇円
同封の振込用紙をご利用頂き、五月
末までにお振り込み下さい。

130周年記念誌をお送りします

学校主催の式典で配られたもので
す。一冊一〇〇〇円(送料込) 会費振
込用紙でお申し込み下さい。

名簿の資料提供にご協力を!!

(新住所・改姓名をお知らせください)

会報を通じ、より大きく同窓の輪が
広がることを願い、正確で充実した資
料づくりを目指していますが、毎年、
相当な数の宛先不明の会報が戻ってき
ます。
名簿委員会では、会報をお送りする

ために、「個人情報保護法」に則り、
同窓会員の皆様の自宅住所・電話番号
の個人データを厳重に管理し、保持し
ています。転勤、結婚、転居などによ
り変更となる場合には、事務局までお
知らせください。

同期会・クラス会への

支援について

開催の際にご連絡をいただければ、同
窓会(名簿委員会)で把握している住
所リストをシールにてご提供いたしま
す。事務局までお知らせください。

物故者

平成11年12月 平成17年8月
古川吉宗 先生 新堂芳郎 先生
謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

第五回 同窓会総会記録

平成17年4月23日(土) 午後2時
於/大井第一小学校 視聴覚室
出席者総数/約30名
1、会長挨拶 津田 照通
2、来賓挨拶 桑野校長先生
3、議事
①事業報告 ②会計報告及び監査報告
③事業計画 ④収支予算案
⑤役員改選 ⑥その他

以上の議事について承認決定されまし
た。

役員

会 長 津田 照通(昭和14年卒)
副会長 森 秀雄(昭和34年卒)

理事 松本徳太郎(昭和35年卒)
杉内 先子(昭和41年卒)
佐藤 武(昭和41年卒)
小林 昌雄(昭和46年卒)
飯田 るみ(昭和46年卒)
19名

平成16年度 収支決算報告書
平成16年4月1日より平成17年3月31日まで

収 入	支 出
15年度より繰越 3,920,812	会費振込手数料 61,620
会費入金(16年分) 704,000	会報関係 895,655
(17年分) 967,000	(印刷費・7号分) (457,907)
寄 付 10,000	(発送費・7号分) (437,748)
預金利息 106	集会費 11,585
16年度卒業生入会金 29,400	通信費 11,450
	名簿訂正加除他 152,250
	その他経費 52,292
	次期繰越金 4,446,466
計 5,631,318	計 5,631,318

同窓会ホームページを

作成中です。

ご協力して下さる方を募っております。

園 文博(S37年卒)
TEL 〇三―五七―一八一七八一
Eメール garten@agate.plala.or.jp

編集後記

今回は、昨秋の「創立一三〇周年記
念」にお寄せ頂いたエッセイ特集とい
なりました。

ふれあう人の心…少年少女の頃の
瑞々しいあの輝き…小さな宝物をお届
けできましたなら幸いです。

同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願い
します。

森 秀雄
〒一四〇―〇〇一四
東京都品川区大井一―五三一九
TEL 〇三―三七七―二一〇五六
Eメール: hide@mori-shoukai.co.jp
松本 徳太郎
〒一四〇―〇〇〇四
東京都品川区南品川五―一三一―
TEL 〇三―三四七―一〇二八六
Eメール: mats745@cts.ne.jp
〒一四〇―〇〇一四
東京都品川区大井六―一―三二
品川区立大井第一小学校
同窓会事務局
TEL 〇三―三七七―一五二四〇
http://www1.cts.ne.jp/oiichi/

編集委員

昭和13年卒 松崎 濤子
昭和34年卒 森 秀雄
昭和35年卒 東山 周子(兼村)
昭和35年卒 上野 良子
昭和35年卒 松本徳太郎
昭和42年卒 井上 幸子(山崎)
昭和49年卒 三戸 美子(山口)

この「会報」が多くの皆さまの心の
交流点となれますよう、これからも努
めていきたいと思えます。また、この
たびさまざまな形でご協力を下さいま
した皆さまに心より御礼申し上げます。
ありがとうございます。